－中学校の実践Ⅱ－

個別の指導計画の作成を通した

特別支援教育コーディネーターの取組

本校ではこれまで教育上特別な支援を必要とする生徒の対応は生徒指導部が中心となって実践してきた。特別支援教育の理念は個のニーズに焦点を当てることにある。

近年、多くの新規事業が学校に求められている。また、学校規模が縮小していく中での新しいシステムの追加は形骸化を懸念せざるを得ない。一方、種々の啓発により保護者の特別支援教育に対するニーズは高まり、校内組織の必要性も生じてきた。

本校は不登校対策指定校を受けていたこともあり、既存の組織の不登校対策委員会に特別支援教育コーディネーターを含めて特別支援教育推進委員会として発足している。両者は個別のニーズ対応において共通するものであり、また、方策も共通、参考部分が多いことから今後は組織の精選を進め、一元化できるものと考えている。

既存組織の再編により、校務の追加でなく機能の充実となり負担感のないスムーズな発足を迎えることができている。生徒指導、保健室関係は構成員として含まれおり、情報の共有化は図っているが、組織での効率のよい連携を進めたいと考えている。

自閉症をスペクトラムで捉える視点があるが、障害とそうでない状態もその視点で捉えていくなら、いわゆる６，３％の生徒のみでなく、全ての生徒を対象として、あるいは特別な教育的支援を必要とする生徒はいるものとして学校全体を検証する役割もあると考える。

１　特別支援教育推進委員会の開催

(1)　構成

校長、教頭、特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事、生徒指導部長、養護教諭、スクールカウンセラー、特別支援学級担任代表、学年主任（副コーディネーターとして学年部会を担当）

(2)　開催

不登校対策委員会と隔週で水曜日５校時

(3)　年間の活動

定例委員会の開催－課業時間に組み入れ、不登校対策委員会との隔週で開催

①　学校行事等での配慮

毎月の行事で特別な配慮の有無の精査、対応の検討

例：中間テスト、合唱コンクール、職場実習等での配慮

環境の調整

①　物理的な整備

例：全校集会でのＰＣプロジェクターを使った視覚支援

教室の机椅子にテニスボールをつけた騒音軽減

掲示物を除去した部屋への移動教室

② 座席の配慮

③ 授業改善、指導上の配意

例：具体的で簡潔な指示と口頭指示の視覚化、本時の目的明示、授業の見通し提示、板書技術、研究クラスの指定、達成可能な課題提示と肯定的評価、「できないこと」の判断と配慮

④ 特別な教育的支援を必要とする生徒の進路指導

例：事例収集、情報提供、受験指導

⑤ 校外研修等の報告

例：コーディネーター研修の報告、施策の動向

⑥ ケース会議による学級担任の支援方策の具体化検討

例：アセスメント、巡回相談の要請、アシスタントの配置、個別の指導計画の作成

⑦ 学区内特別支援教育コーディネーター連絡会の実施

例：実践交流、入学予定児童の把握

⑧ 特別支援教育推進委員会の広報

例：委員会だよりの発行（委員会の内容、特別支援学級の様子等）

⑨ アシスタントとの打ち合わせ　指導時間、方法、記録の確認

⑩ 次年度入学予定の特別な教育的支援を要する生徒の対応検討

⑪ 次年度の巡回相談員、特別支援教育アシスタント等の活用計画

⑫ 新年度の特別な支援を要する生徒についての研修会準備

(4) 特別支援教育コーディネーターの役割

① 特別支援教育推進委員会委員長としての委員会運営

② 年間計画の細案提示

③ 副特別支援教育コーディネーター（学年主任）との連携

④ 特別支援教育の広報

⑤ 特別支援教育通信の発行

⑥ 外部機関との連絡

３　ＡＤＨＤの生徒への取組

(1) 生徒の実態

入学時に他区より転入し、小学校からの配慮等の連絡はなかった。当人は人見知りせず早くうち解けいつもにこにこしているが、授業中の落ち着きのなさや自由時間での人とのトラブル、部活動での他人の道具との見分けや不注意による踏みつけ等についての問題が多発して奇異に感じる生徒も出始めた。対人的なトラブルでは泣くこともあるが、すぐに忘れてまた同じ人と関わろうとする。学力に極端な遅れはないが、内容が深まる今後は心配される。

保護者も家庭での扱いに苦慮されている。面談で兄弟がＡＤＨＤの診断を受けてい

ることが分かる。

医師、指導主事の勧めにより、障害については本人や周囲の生徒に知らせない方針で対応している。

(2)　実態把握の経緯

①　担任、学年主任からの訴えにより特別支援教育コーディネーターが観察

②　具体的な困り感把握のため授業担任に１週間の授業記録依頼　資料１

③　発達障害者支援センターの利用を勧める

④　ＡＤＨＤの診断を受け、同時に投薬開始

⑤　特別支援教育アシスタントの要請

⑥　薬効確認のためさらに１週間の観察を授業者に依頼

⑦　翌週の再診で投薬増量

(3)　個別の指導計画　資料３

(4)　当該生徒への目標

ア　同齢者に求められる学習や生活課題が障害により習得できないことを極力防ぐ。

①　対人関係が円滑に保てるよう、トラブルが予想される時や事後にその都度、簡単な役割実演をして理解させる。

②　人配が可能な範囲で近くに寄り添い学習、生活の支援をする。

イ　二次的障害の予防

①　自己有用感が持てる場面をつくる。

②　落ち着く場所を用意する。

③　親しい相談者をつくる。

(5)　特別支援教育アシスタント

ア　配置時間

活動が規制されない時間にトラブルが多発していることが観察記録などから伺えたため、給食の配膳時間より昼休憩、午後の授業、放課後のクラブ活動全体練習前までの１２時３０分より１６時３０分とする。

イ　全校への紹介

本人、周囲の者に対して、学校長は「教育相談員」として配置されたことを全校集会で紹介する。

ウ　支援

当該生徒へ接近するため、１年の階に常駐してもらい遠巻きに寄り添いながら時間をかけてクラス、当該生徒に自然に接しつつＴＴとして授業や生活の支援をはじめる。

エ　日々の記録－資料２

オ　職員室座席

意見交流がしやすいように担任の隣に席を設ける。

(6)　校内支援体制づくりのポイント

- 年度当初からの入学予定生徒の小学校との情報交換
- 新年度の授業開始２週間後の教科担任による全生徒の観察
- 全生徒の観察に基づく個別の観察
- 事例検討
- 対象生徒の特性に応じた環境の調整
- 情報の共有化等の組織的な特別支援教育の取組
  （他の教育活動様式のモデルとなる）

資料１

１日の記録　　（　　）月（　　）日（　　）曜日

校　時	教　科	記入者	様子、出来事やその対処、所感、対応のアイデアなど
１校時			
２校時			

資料２

日　付	時間（頃）	出来事やその対処、所感など

資料3

個別の指導計画

作成年月日	

学校名		○○○中学校					
ふりがな 氏　名							
性別	男	年齢		生年月日			
住所							
連絡先		自宅		母		父	

家族構成

続柄	年齢	職業等	名前
父			
母			
弟	3		
妹	1		

担任	学区外の小学校	小５年	担任：
	同上の小学校	小６年	担任：
	現在の中学校	中１年	担任：

相談・治療・訓練機関歴

開始時期	機　　関　　名	担当者・様子・今後の予定　等
平成年月	小学校卒業	
平成年月	中学校入学	
平成年月	発達障害者支援センターに相談	DrよりＡＤＨＤの診断、投薬開始

検査	ＷＩＳＣⅢ　ＶＩＱ　　ＰＩＱ　　ＩＱ
療育手帳等	なし

既往症、身体的配慮事項、運動制限、アレルギー　等

なし

服薬

○月○日より発達障害者支援センターからリタリン処方。△月△日薬効確認で再診し増量。登校後に効果力持続するよう朝昼とも学校で服用。

【保護者の学校への期待・希望】

対人トラブルをなくしてほしい。

家庭生活で特に困ること

家庭でも相手の都合を考慮しない態度が多く、また、会話が行き違いになったりして母親は疲弊している。思いが通じず、壁に頭をぶつける行動があった。幼い兄弟と同じ立場になりのめり込んで遊ぶ。

学校生活で心配なこと

対人トラブルを引き起こす動きを自ら取ることが多く、そういった行動を積極的に誘引する者も一部におり、いじめへの発展が懸念される。本人はそうしたことに全く気付いておらず、遊びの延長で関わってくれていると思っているので大人の介在でその場は収まってもすぐに自分から繰り返す。
本人や周りに障害名を伝えることは、弊害の方が大きいとの医師、指導主事の助言によりしていないが、極端な個性の理解を周囲に求めるのは大変難しい。

資料3

本人の願い
個人指導では友達がほしいと強く願っていることが伺える。そのためか泣くようなトラブルの後でも謝ることですぐに許してしまうし自分も許されたと思っている。
担任の願い
感情を制御して周囲の者とうまくつきあってほしい。また、周囲の者も互いの個性を理解してうまくつきあってほしい。
その他
保護者は、弟もＡＤＨＤの診断を受けていることもあって、専門機関への躊躇はあまりなくスムーズに受診した。兄弟がＡＤＨＤとのことで家庭のストレスが心配される。
＊専門家チームによる巡回相談指導を行うことに対する保護者の了解　　有

現在の様子			つけたい力	支援
生活	登下校	呼びかけても無視する、衝動的に本人は親近感をもってたたく、知らないグループの会話に割って入る、などの対人トラブルが多い。	人との距離感や気持ちの洞察力	理解者を見つける。
	休憩	すぐに教室から出て行き、脈絡なく人に関わっていく。	衝動性の抑制	黒板消しなど、やるべき行動が決まっているとよい。
	身辺処理	家庭でも整理整頓が行き届いている。		認められる活動にいかし、自己有用感をもたせる。
	その他			
学業	国語 社会 数学 理科 英語 音楽 美術 保健体育 技術・家庭 総合 学活 道徳	成績は中程度。英語と数学は家庭教師がつくようになり、点数が大幅に向上したが、思考の部分点は低位。 座学では積極的に挙手をし「それ知っとる」などと言うのでうるさいが、授業には関心をもっている。 動きのある学習はトラブルが多くなる。 作業が入ると全体の説明では理解しておらず、個別の説明を求める。応じても手順の理解がうまくできず、何度も聞きに来る。	現在の学力を維持させる。	教科学習自体に苦手意識をもたせないように苦手部分はあまり追求せず、得点可能な部分を取りこぼさないようにそせる。 授業の規律についてその都度言い聞かせ習慣化させる。 移動、対人接点のある内容の場合、当人の役割を明示した後に活動させる。 作業手順や提出物、宿題などは文字化して知らせる。
得意・興味関心		几帳面で整理整頓はよくできる。 ゲームの時間など決められたルールを良く守る。 成人向け雑誌に興味をもち、コンビニでも堂々と立ち読みをする。女子の前でも読んだことを隠さない。	年齢相応の行動や隠すべきことを知る。	当人の了承を得て約束のカードを作り携帯させる。 事態発生の度、予想される度にケースごとに一つずつ教える。
苦手		対人関係：人との距離感、気持ちの洞察ができない。冗談が通じない。嘘が言えず気持ちを隠すことをしないため、そのまま表現する。	一つずつ対人関係を保つ技術を身につけてさせる。	ケースごとにその都度具体的な指導をする。

月日	エピソード